

# 学生たちは、どう感じているのかな？



超氷河期と言われる就職難の昨今、学生たちは何を感じているか、家庭での育ち方、就活、将来のことなど、三芳町にある淑徳大学みずほ台キャンパスの学生4人に語ってもらいました。

参加者(写真左から)  
アラタムチリさん 文化コミュニケーション学科2年 日本語・日本文化コース (中国内モンゴル自治区からの留学生)  
新堀 未佳さん 文化コミュニケーション学科4年 歴史文化コース  
和村 かなさん 人間環境学科4年 観光ツーリズムコース  
阿部 克洋さん 経営コミュニケーション学科4年 スポーツ&ウェルネスコース

【淑徳大学みずほ台キャンパス】平成8年「国際事業人」育成を目的として、短期大学から男女共学の国際コミュニケーション学部が開設されました。千葉にもキャンパスがあります。  
■所在地：三芳町藤久保1150-1 ■電話：049-274-1511(代)



## 「仕事・将来の「夢」

- ★100社近く回って、結局続かず活動を止めてしまった友人もいました。行き詰まらないように、活動する時は集中し、遊ぶ時は思いっきり遊びました。気持ちを上手に切り替えるようにしていたら、運良く内定をもらえたので、この方針でやってきて良かったと思います。
- ★内定した職場は、女性が500人中50人しかいません。しかも、大卒女子で総合職の採用は初めてだそうです。人事の担当者から、「総合職で女性初です。ちみよご自由がきくかも 싶れない。今後はどんどん平等にしていきたいから、数年経ったらそれも言ってもらいたいですね。」と言われました。
- ★内定先で頑張ってる、ある程度の地位に就くこと。それから、スポーツマナジメントにも興味があるので、社会経験を積んだ上で夢の実現も考えています。★どうしても営業職に就きたかったけどもあり、女性がいきいきと働けること

## 「結婚・出産・育児について」

- ★取引先のとことんが、中国・アメリカなので、駐在までいかななくても、必ず出張があるそうです。もともと海外へは行きたいと思っていたので、駐在の希望を伝えてあります。
- ★母国に帰ってからは、日本語の教師になりたいと思っています。
- ★今の私には結婚・出産の文字はないですね。でも、もしそうになったら、産休や育休を使って働きたいかなと考えています。
- ★結婚しても働き続けることは、もちろん良いことだと思いますが、私は結婚したら家庭に入りたいと思っています。
- ★視点で会社を選びました。後輩に頼まれ、先輩にも頼られ、かつ、お客さまからも信頼されるような営業職になってMVPを取りたいというのが、近い将来の夢です。
- ★取引先のとことんが、中国・アメリカなので、駐在までいかななくても、必ず出張があるそうです。もともと海外へは行きたいと思っていたので、駐在の希望を伝えてあります。



## 「家庭・学校・アルバイトでの男女観」

- ★「女の子だから一般職で普通の生活を」と親に言われましたが、営業職を選びました。親の考えとは違う方向へ進みます。
- ★親から「これからの社会は男女平等になっていくのだから頑張れ」と言われて育ったので、自分自身男女の差別意識はあまりないですね。
- ★就職する時「女の子だからあまり遠くへは行かないで」と言われました。これって、差別ではなく「心配」?
- ★料理などは、兄弟と一緒に、わいわい仲良くやっていますが、親から「料理は、いずれ女性がよくやるから、今はやらなくても良い」と言われています。
- ★実家暮らしです。家事については言われたらやる程度ですね。
- ★父親は、自分が子どもの頃から、家事をやっているせいか、「女の子だから家事を」と言われた事はありませんでした。
- ★学校生活で差別は感じないですね。力仕事かな。



## 「就活はさうだったっー」

- ★パンの販売をしていたのですが、集まるのは女性が圧倒的でした。男性もいましたがすぐに辞めてしまう人が多かったです。
- ★家電量販店でキャンペーンガールをやっています。とは言え、仕事内容は男性と同じで販売もやります。商品の知識も十分に勉強し説明も完璧なのに、特に年配者の男性にはあまり信用されないと感じました。集客は女性、販売は男性の例式が見えて、そんな職場では働きたくないと思いました。
- ★すごく大変でした。でも、頑張れば絶対にどうにかなると思ってました。あきらめなければ、なんとかなるって、自分に言い聞かせて活動しました。
- ★多少は感じましたね。気になる会社は確実に説明会に行って、仕事の内容を重視し、納得して受かった会社で就職をしようと考えています。



## 取材を終えて

淑徳大学は三芳町と包括連携協定を結び、『協働のまちづくり』の取り組みのほか、パソコン教室等の事業や人材交流など様々な分野で協力しています。今回の取材で学生が、しっかりした考え方や価値観のもとで就職活動をされたこと、また、同席していただいた岩村教授のお話から、自己実現に向けて、学生一人ひとりに合わせた支援体制も充実していることを実感しました。社会に出てからも、男女の差別を感じることなく活躍してほしいと思いました。